

2018年度 早稲田大学 大学院人間科学研究科 研究指導内容一覧

以下は **2017年4月1日更新時点** の情報です。公開後の変更は赤字で記載します。
(2017/7/5 修正 ※松原先生、井原先生のメールアドレスを一部修正しました)

今後内容が変更になる可能性もありますのでご注意ください。

<注意事項>

① **当研究科では入学後のミスマッチを防ぐために、出願前にご自身の希望する研究指導の担当教員とコンタクトを取り、担当教員とご自身の考えている研究内容などを十分に相談のうえで出願することを強く推奨しています。可能な限り、担当教員と事前の連絡を取るよう努めてください。ただし、連絡が取れなかった場合でも出願は認めます。**

※複数の教員が担当する研究指導を希望する場合は、「筆頭担当者」に連絡を取るようしてください。担当する教員全員に連絡を取っても構いませんが、筆頭担当者には可能な限り連絡を取り、相談するようしてください。

(1) 担当教員への連絡はこの「研究指導内容一覧」内、各教員の指導内容欄を確認し、そこに掲載されている E-mail アドレス宛にメールを送付してください。

もし掲載されていない場合は、以下いずれかのページで掲載を確認してください。

<早稲田大学 人間科学学術院教員紹介ページのアドレス>

<https://www.waseda.jp/fhum/ghum/about/faculty/>

<早稲田大学 研究者データベースページのアドレス>

<http://researchers.waseda.jp/>

(2) **(1)の方法でメールが送付できない場合は、以下メールアドレス宛てに送付してください。**

なお、送付の際は以下を必ず明記してください。

メール件名：大学院人間科学研究科 出願に関する問い合わせについて

- 1) 指導を希望する教員名
- 2) 希望する課程(修士課程2年制・博士後期課程・修士課程1年制)
- 3) 希望する入試形態(一般入試・推薦入試など)
- 4) 氏名・カナ氏名(在学生の場合は学籍番号も記載)
- 5) 自身の連絡先(携帯電話番号、PCメールアドレス等)
- 6) 教員へ送付したい内容(教員への質問や相談などを詳細に明記すること)

早稲田大学所沢総合事務センター

大学院人間科学研究科 入試担当 宛

human-enter■list.waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)

(3) 海外出張等で教員とすぐに連絡がつかない、または返信が遅れる場合もありますので、早い段階から教員との相談・確認を開始してください。

②研究指導コードは次ページ以降を参照のうえ、間違いのないように志願票に記入してください。

<ご参考：早稲田大学 Web シラバスシステム (検索ページ) >

<https://www.wsl.waseda.jp/syllabus/JAA101.php>

「研究指導コード」欄に「コード」が入っている研究指導は開講していることを示し、出願可能です。

「×」は募集を終了、「-」は担当なしを示し、出願できません。

〔地域・地球環境科学研究領域〕 . . . P 6 ~

研究指導名	資格	担当教員名	修士課程 研究指導コード	博士後期課程 研究指導コード
森林環境科学	専任講師	平塚 基志	003	—
水域環境学	教授	井内 美郎	010	×
生物圏生態学	教授	太田 俊二	015	695
大気環境科学	教授	松本 淳	020	700
極限環境生命科学	准教授	赤沼 哲史	023	703
動物行動生態学	教授	三浦 慎悟	×	×
環境社会学	教授	井上 真	030	710
耕地環境科学	教授	横沢 正幸	033	713
地域資源論	教授	柏 雅之	035	715
人口社会学	教授	武田 尚子	040	720

〔人間行動・環境科学研究領域〕 . . . P 9 ~

研究指導名	資格	担当教員名	修士課程 研究指導コード	博士後期課程 研究指導コード
環境心理・環境デザイン	准教授	佐藤 将之	185	765
建築環境学	教授	小島 隆矢	190	770
建築計画学	教授	佐野 友紀	195	775
発達行動学	教授	根ヶ山 光一	200	780
発達動機づけ論	教授	外山 紀子	205	782
社会文化心理学	教授	古山 宣洋	207	785

〔文化・社会環境科学研究領域〕 . . . P 11 ~

研究指導名	資格	担当教員名	修士課程 研究指導コード	博士後期課程 研究指導コード
アジア社会論	教授	店田 廣文	055	×
家族社会学	教授	池岡 義孝	060	—
都市社会学	教授	臼井 恒夫	075	—
階級・階層論	教授	橋本 健二	085	735
移住論	教授	森本 豊富	115	745
科学史・科学論	専任講師	加藤 茂生	120	—
技術文化論	准教授	余語 琢磨	125	—
政治社会文化論	教授	村上 公子	135	—
都市人類学	准教授	竹中 宏子	140	747
開発人類学	准教授	原 知章	142	748
歴史人類学	専任講師	里見 龍樹	143	—
物質文化論	教授	谷川 章雄	145	750
表象文化論	准教授	中村 要	×	—

〔健康・生命医科学研究領域〕 . . . P 1 5 ~

研究指導名	資格	担当教員名	修士課程 研究指導コード	博士後期課程 研究指導コード
応用健康科学	教授	竹中 晃二	240	800
基礎老化学	教授	千葉 卓哉	245	825
細胞制御学	教授	原 太一	253	818
体温・体液生理学	教授	永島 計	260	815
分子神経科学	教授	榊原 伸一	265	820
認知神経科学	教授	大須 理英子	268	823
医療人類学	教授	辻内 琢也	270	830
健康管理医学	教授	河手 典彦	275	—

〔健康福祉科学研究領域〕 . . . P 1 8 ~

研究指導名	資格	担当教員名	修士課程 研究指導コード	博士後期課程 研究指導コード
緩和医療学・臨床死生学	教授	小野 充一	300	835
社会医学	教授	扇原 淳	310	840
予防医科学・応用生理学	教授	掛山 正心	312	843
バイオエシックス・生命の哲学	教授	森岡 正博	315	850
福祉産業学	教授	可部 明克	330	—
リハビリテーション科学	教授	村岡 慶裕	335	858
児童家庭福祉論	教授	川名 はつ子	×	—
社会保障政策論	教授	植村 尚史	370	—
健康福祉マネジメント論	准教授	松原 由美	377	—
精神保健福祉論	教授	田中 英樹	×	×
ソーシャルワーク論	准教授	岩崎 香	385	—
子どもの健康福祉学	教授	前橋 明	390	860
老年社会福祉学	教授	加瀬 裕子	395	865
社会精神保健福祉学	教授	田中 英樹(筆頭担当者)	400	868
	教授	扇原 淳		
	教授	辻内 琢也		

〔臨床心理学研究領域〕 . . . P 2 3 ~

研究指導名	資格	担当教員名	修士課程 研究指導コード	博士後期課程 研究指導コード
学校カウンセリング学	准教授	桂川 泰典	425	—
行動臨床心理学	教授	嶋田 洋徳	430	870
医療心理学・職場メンタルヘルス学	教授	鈴木 伸一	435	875
心身医学	教授	野村 忍	440	880
認知行動カウンセリング学	教授	根建 金男	445	885
行動医学	教授	熊野 宏昭	450	890
行動分析学	准教授	大月 友	1年制のみ担当	892
臨床発達心理学	特任教授	井原 成男	1年制のみ担当	894

〔感性認知情報システム研究領域〕 . . . P 2 6 ~

研究指導名	資格	担当教員名	修士課程 研究指導コード	博士後期課程 研究指導コード
生体情報工学	准教授	百瀬 桂子	485	900
感性認知科学	教授	齋藤 美穂	490	905
言語情報科学	教授	菊池 英明	495	910
社会的実践認知科学	教授	宮崎 清孝	500	—
日常記憶心理学	准教授	杉森 絵里子	503	—
心理行動学	教授	鈴木 晶夫	510	×
生態心理学	教授	三嶋 博之	515	922
知識情報科学	教授	松居 辰則	520	925
人間生体機能動態学	教授	宮崎 正己	525	—
福祉工学	教授	藤本 浩志	530	930
生活人間工学	准教授	加藤 麻樹	560	—
加齢人間工学	教授	倉片 憲治	563	924

〔教育コミュニケーション情報科学研究領域〕 . . . P 3 0 ~

研究指導名	資格	担当教員名	修士課程 研究指導コード	博士後期課程 研究指導コード
インストラクショナルデザイン論	教授	向後 千春	565	935
インターネット科学	教授	西村 昭治	570	938
学習環境デザイン論	准教授	尾澤 重知	575	940
教育システム開発論	教授	井上 典之	578	943
教育コミュニケーション学	教授	保崎 則雄	585	947
教育実践学	教授	浅田 匡	590	—
教育情報工学	教授	永岡 慶三	×	×
情報コミュニケーション科学	教授	金子 孝夫	600	955
情報コミュニケーション技術論	教授	スコット ダグラス	605	—
情報メディア教育論	准教授	森田 裕介	610	960
ネットワーク情報システム学	教授	金 群	615	965
教育情報メディア工学	教授	永岡 慶三(筆頭担当者)	620	970
	准教授	森田 裕介		

修士課程 1 年制コース〔教育臨床コース〕 . . . P 3 4 ~

研究指導名	資格	担当教員名	修士課程 1 年制 研究指導コード
学校臨床心理学	准教授	大月 友	645
臨床認知発達学	特任教授	井原 成男	650

人間科学研究科 研究指導内容

1. 地域・地球環境科学研究領域

研究指導名	森林環境科学	専任講師	平塚 基志
専門・専攻分野	森林環境科学	学位	博士(人間科学)早稲田大
指導内容	自然科学及び社会科学の両側面から、森林生態系を対象にした研究を進める。とくに熱帯地域での森林減少・劣化を研究テーマとし、人為影響による森林生態系への影響(温室効果ガスの排出等)を取り上げる。研究を進めるにあたっては、東南アジア等での現地調査によるデータ収集、そしてそれらを用いたデータ分析を行い、森林分野における諸課題への具体的な対策を考察する。		
Keywords	熱帯林、森林バイオマス、森林修復、人為影響、参加型開発		
Web page			
E-mail	hiratsuka■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		

研究指導名	水域環境学	教授	井内 美郎
専門・専攻分野	環境地質学／環境変遷学	学位	理学博士(京都大学)
指導内容	湖底・海底の堆積物を対象に、環境変遷史解読に関する調査・分析・解析を行う。たとえば、琵琶湖で採取された湖底掘削試料を用いて、生物源珪素の含有率測定によって湖内の一次生産の変化と気候変動との関係を検討することなどが予定されている。		
Keywords	水域、堆積物、環境変遷史、気候変動、人間活動		
Web page			
E-mail	yinouch■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		

研究指導名	生物圏生態学	教授	太田 俊二
専門・専攻分野	生物学／生物圏生態学／環境情報科学	学位	博士(人間科学)早稲田大
指導内容	生物圏をめぐるさまざまな系などを地球という最大のシステムとしてとらえ、モデリングやシミュレーションを手法として定量化することを主たるテーマとする。時間スケールとしては数秒から100年単位までを、空間的には微気象から地球全体までを扱っていく。従来の学問領域でいうと、生態学、気候学、農業気象学、地理学などを横断的にアプローチすることを可能とするような研究指導を考えている。これまでの主なシミュレーション研究は、1) 世界の植物生産力、食料生産、2) 人間活動による森林面積の減少、3) 将来予測される気候変化の生物圏への影響などである。		
Keywords	生物圏、物質循環、エネルギーの流れ、気候変化、植物生産力、土地利用、人口分布		
Web page	http://www.npp.human.waseda.ac.jp/		
E-mail	shun■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		

研究指導名	大気環境科学	教授	松本 淳
専門・専攻分野	環境科学／大気環境科学	学位	博士(理学) 東京大
指導内容	<p>地表付近の大気(対流圏)では、人間活動などから放出される大気汚染物質(窒素酸化物、揮発性有機化合物)の光化学反応によって、高濃度で生体に有害となるオゾンなど「光化学オキシダント」が生成します。これを効果的に抑制する前提として、汚染物質の放出・反応といった挙動の正しい把握、そのための実験・観測・計算・解析が重要となります。</p> <p>本研究室では、新規計測ツールの確立・室内実験・実大気観測などを遂行しつつ、関連するデータの解析・評価も実施し、大気環境科学に関する動態解析や現象解明を行い、私達の暮らす大気環境の維持・改善に貢献します。</p>		
Keywords	大気汚染物質、大気化学反応、光化学オキシダント、浮遊粒子状物質、計測機器開発、大気観測、大気環境動態		
Web page	http://www.f.waseda.jp/jmatsumoto/		
E-mail	jmatsumoto■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		

研究指導名	極限環境生命科学	准教授	赤沼 哲史
専門・専攻分野	極限環境微生物学	学位	博士(理学) 東京工業大
指導内容	<p>「生命と環境の共進化」をテーマに、原始地球環境下での生命誕生のシナリオや、40億年に渡る生命の進化の歴史と地球環境の変遷について実験により研究する。また、生物が持つ環境負荷の少ないタンパク質性触媒である酵素を環境、食品、医薬品合成等に利用することを目指した、酵素の機能や性質を自由に改変するための技術開発をおこなう。</p>		
Keywords	生命の起源、バイオテクノロジー、遺伝子工学、タンパク質工学、極限環境微生物		
Web page	http://www.f.waseda.jp/akanuma/index.html		
E-mail	akanuma■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		

研究指導名	動物行動生態学	教授	三浦 慎悟
専門・専攻分野	野生動物の保全と管理及び野生動物の行動生態学	学位	理学博士(京都大学)
指導内容	<p>野生動物の保全と管理に関するあらゆる問題や課題を指導対象としたい。野生動物管理の基礎となる行動生態学や個体群生態学の分野、とくにフィールドワークに基づく繁殖システムや生活史や適応戦略などの解明を行いたい。また、保全と管理に直結する個体数推定法の開発、リスクの評価法、モデルによるシミュレーションなどを研究対象としたい。同時に、野生動物と人間との関係史やその制度など社会科学分野も広く取り上げ、わが国の環境と社会に立脚した日本版「野生動物管理」の構築を目指したい。</p>		
Keywords	野生動物、保全、管理、行動、生態学		
Web page			
E-mail	smiura■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		

研究指導名	環境社会学	教授	井上 真
専門・専攻分野	環境社会学／森林ガバナンス論／東南アジア地域研究	学位	農学博士(東京大)
指導内容	人間社会とそれを取り巻く環境の相互作用に関する学生の自主的な興味・関心を重視し、それを展開して論文作成に繋げるためのアドバイスをを行う。そのためには、アカデミズムの中で蓄積されてきた理論、枠組み、概念等を適切に選択・援用・改変すること、あるいは自らそれを創造することが必要である。この研究指導の特徴は、環境社会学および関連分野に跨がる学際的研究の知見を活用した適切な方法論の彫琢にある。研究対象地は熱帯諸国でも日本でもかまわない。		
Keywords	住民、市民、森林、自然資源、生計、自治、連携、ガバナンス、内発的発展		
Web page			
E-mail	makinoue ■waseda.jp (左記 ■部分を@に変更してメールを送ってください)		

研究指導名	耕地環境科学	教授	横沢 正幸
専門・専攻分野	生態系モデリング	学位	博士(学術)東京大
指導内容	環境との相互作用の結果、生態系に立ち現れる諸現象の解明と予測についての研究指導を行う。学術分野としては生態系生態学、農業環境学、環境解析学等を対象としているが、分野にとらわれず、他分野の知見も援用して課題解決ができるように指導する。手法は、統計モデリングを中心として、データの背後に含まれる規則性や因果関係を推論できるように指導し、研究成果が国際学術誌に掲載されることを目指す。		
Keywords	環境応答、物質循環、データ同化、ネットワーク、モデリング		
Web page			
E-mail	myokoz ■waseda.jp (左記 ■部分を@に変更してメールを送ってください)		

研究指導名	地域資源論	教授	柏 雅之
専門・専攻分野	農業経済学／地域政策論／食料・資源経済学／環境農業政策論	学位	農学博士(東京大学)
指導内容	①農山村地域発展のための論理と政策システム ②日本農業の構造分析と農業再生 ③地域内発的アグリビジネス(「6次化産業論」) ④EU(欧州連合)における農業農村発展 ⑤食、農業と環境		
Keywords	農業再生、世界食料危機、内発的地域発展、中山間地域、EUの農村地域政策、ローカルガバナンス		
Web page			
E-mail	kashiwagi ■waseda.jp (左記 ■部分を@に変更してメールを送ってください)		

研究指導名	人口社会学	教授	武田 尚子
専門・専攻分野	社会学:人口社会学、地域社会学、質的調査方法	学位	博士(社会学)東京都立大
指導内容	人口社会学・地域社会学的アプローチ、質的調査によって、地域社会構造、生活構造の変容プロセスを探求する方法を指導する。近現代社会の変動によって生み出された社会的弱者・貧困・格差・社会的疎外にも理解を広げ、生活保障についても考える。		
Keywords	人口移動、地域社会、質的調査方法、労働移動、食と環境		
Web page			
E-mail	naokotakeda ■waseda.jp (左記 ■部分を@に変更してメールを送ってください)		

2. 人間行動・環境科学研究領域

研究指導名	環境心理・環境デザイン	准教授	佐藤 将之
専門・専攻分野	環境心理学／建築計画学／こども環境学	学位	博士(工学)東京大
指導内容	建築や都市の環境から各自が関心、興味をもつ次元を選択し、フィールドサーベイを通じて人間と環境との相互関係を明らかにする。特に、着目した次元における人間と環境との相互作用・相互浸透、環境決定に関する分析・考察を行う。応用的な学問としての環境心理学を議論する。環境デザインの議論については、デザイナー向けだけではなく、一般ユーザー向けの意識啓蒙、環境の使い方、環境とのつきあい方の提案を行うものとする。		
Keywords	環境行動研究、建築、環境デザイン、教育、保育、居住、空間		
Web page	http://www.f.waseda.jp/satomasayuki/		
E-mail	satomasayuki■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		

研究指導名	建築環境学	教授	小島 隆矢
専門・専攻分野	建築環境学／環境行動学	学位	博士(工学)東京大
指導内容	住居・建築・都市などの環境をよりよいものとするを目的として、広い意味での顧客(利用者、居住者、所有者、管理者、市民)の意識や行動に関する研究を行う。主要な研究課題としては、環境に対する顧客のニーズ・CS(顧客満足)を把握する調査分析法、その結果を環境の計画・マネジメント等に役立てる方法論の検討などがあげられる。各自の関心・問題意識によりテーマを設定し、事実(データ)を根拠として何らかの提案・提言に結びつく研究成果を期待する。		
Keywords	建築、都市、環境工学、CS(顧客満足)、ニーズ把握、調査手法		
Web page			
E-mail	takaya■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		

研究指導名	建築計画学	教授	佐野 友紀
専門・専攻分野	建築計画学／建築人間工学／建築防災	学位	博士(工学)早稲田大
指導内容	環境としての建築と人間行動の関係を明らかにすることで、相互が適応した建築計画手法を理解する。人間の行動観察や建築の使われ方調査等のフィールド調査、文献調査、実験室実験等を行い、人間－空間－時間の関係をモデル化し、現象を予測、評価することで、建築計画にフィードバックする手法を習得する。また、建築の安全性、利便性、持続可能性等についての研究テーマを各自が選択し、問題点の解明と解決策の提案を追求する。		
Keywords	建築、人間工学、防災、安全、ユニバーサルデザイン、群集制御、モデル、シミュレーション		
Web page	http://sanolab.jp/		
E-mail	sano-t■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		

研究指導名	発達行動学	教授	根ヶ山 光一
専門・専攻分野	行動学・発達行動学	学位	博士(人間科学)大阪大
指導内容	人間性の生物学的基礎を「行動」という生命現象から理解する。行動へのエソロジカルなアプローチは、人間の行動発達の本質を理解する上で重要な示唆を与えてくれるものであり、それらを学習することによって人間存在の基本についての理解を深め、さらに今日の我々が抱える問題解決への指針を得る。その際、「身体」やそれをとりまくさまざまな「モノ」の存在、およびそれらと文化・社会的な枠組みとの関連性を考察する。主な研究課題としては、個の自立の発達の変容過程に焦点化し、生活体が環境において「個」として生きるということと、その生が複数の個の「関係」のネットワークやさまざまな「モノ」のなかで支えられ実現されるという両面を、とくに養育者と子どもの関係における保護と反発の絡み合い、個としての自律性の行動発達や「子別れ」の観点から考察する。		
Keywords	親子、行動発達、離乳、自立、子別れ、身体、空間、事故、食、モノ、住居、玩具、保育、アロマザリング、文化比較		
Web page	https://sites.google.com/site/negayamawsd/		
E-mail	negayama■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		

研究指導名	発達動機づけ論	教授	外山 紀子
専門・専攻分野	発達心理学	学位	博士(学術)東京工業大
指導内容	子どもには、生得的に(あるいは発達のごく初期から)、特定の情報に注意を向け、それを特定のやり方で処理するバイアスが備わっています。この認知的基盤と環境(他者やモノ、その社会の習慣など)との相互作用によって進んでいくものが発達です。この研究指導では、知識やスキルの習得、子どもの動機づけを支える環境世界のあり方、そこでの子どもの振る舞い、他者とのかかわりを観察や実験を通して探ります。頭でただ考えるのではなく、自分なりの視点をもって現象を丁寧に観察する、そしてその背景にあるものを想像しながらまた考える。この作業を繰り返しながら、実証的で独創的な研究を目指します。		
Keywords	動機づけ、認知発達、知識獲得、概念発達、親子、食、病気、保育		
Web page			
E-mail	toyama■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		

研究指導名	社会文化心理学	教授	古山 宣洋
専門・専攻分野	認知科学、生態心理学	学位	Ph.D.(心理学)シカゴ大
指導内容	認知科学における社会文化アプローチ、生態心理学、および周辺諸領域(心理言語学、社会言語学、語用論、記号論など)の観点から実証的な研究を提案・実施し、その成果を学位論文として纏めていく。		
Keywords	言語、身体性、社会文化アプローチ、相互行為、コミュニケーション、不変項、アフォーダンス		
Web page			
E-mail	furuyama■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		

3. 文化・社会環境科学研究領域.

研究指導名	アジア社会論	教授	店田 廣文
専門・専攻分野	社会学／地域研究	学位	博士(人間科学)早稲田大
指導内容	主に日本社会のほか、西アジア・北アフリカ・東南アジア(アラブ社会やその他のイスラーム社会)を対象とする地域研究および都市社会学的研究。日本社会における滞日イスラーム教徒(ムスリム)の生活世界やムスリム・コミュニティに関する研究を主な研究指導の課題とする。その他、イスラーム社会に関する社会学的研究、広義のアジア地域研究の分野についても指導を行い、各自の研究テーマに即して文献購読と研究発表をおこなう。フィールドワークを含む調査研究を実施することを原則として、個人あるいは共同で研究対象とする地域において、フィールドワークをおこなう。		
Keywords	日本、イスラーム教徒、コミュニティ、アラブ社会、イスラーム社会、西アジア・北アフリカ・東南アジア、エジプト、マレーシア、都市、都市化、人口、移民・移動、高齢化、同郷者団体		
Web page	http://www.f.waseda.jp/htanada/waseda_net_www/Welcome.html		
E-mail	htanada■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		

研究指導名	家族社会学	教授	池岡 義孝
専門・専攻分野	社会学／家族社会学	学位	
指導内容	家族をめぐるさまざまな社会現象や家族問題を研究テーマとする。研究のアプローチとしては、家族変動や家族の現状についてのマクロな基礎的データをふまえたうえで、インタビューや会話データ、活字記録、画像・映像などの言説データやドキュメントデータにもとづく質的な研究法を重視する。そのため、研究の共通基盤として、こうした質的な家族研究法および欧米と日本の家族研究史ないしは家族学説史の学習を、実際のデータ収集と分析の実習を一部まじえながら、主として文献研究によって行うことにしたい。各人の研究については、これら基礎的な学習を前提にしたうえで取り組むよう指導する。		
Keywords	質的家族研究、家族問題、社会的構築主義、エスノメソドロジー、会話分析、家族学説史		
Web page			
E-mail	socio■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		

研究指導名	都市社会学	教授	臼井 恒夫
専門・専攻分野	社会学／都市社会学	学位	
指導内容	日本、アジア、アメリカ、ヨーロッパの都市と都市化をテーマとした都市社会学的研究。都市社会学の研究テーマは多岐にわたっているが、主なものをあげれば都市化と人口変動、第3世界の開発と都市化、都市の環境問題と持続的発展、都市化社会とコミュニティ形成などである。受講生各自の研究テーマを明確化しながら、それに合わせて文献講読と調査研究を進めていく。調査研究のフィールドとしては首都圏の都市を想定しているが、比較の視点をとりいれながらアジアの都市にも目を向けていきたい。		
Keywords	都市、都市化、都市的生活様式、人口移動、コミュニティ、都市政策、まちづくり		
Web page			
E-mail	tusui■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		

研究指導名	階級・階層論	教授	橋本 健二
専門・専攻分野	社会学	学位	博士(社会学)武蔵大
指導内容	社会学的な階級論・社会階層論の立場から、現代日本社会の構造、近現代における階級構造・階層構造・格差構造の変動過程、貧困の実態と動態、格差と関係するさまざまな社会現象の分析をテーマとする研究指導を行う。研究の方法としては、調査データ・統計データの計量的分析を中心とするが、必要に応じて文書資料、ドキュメンタリー、文学作品、映像作品、インタビューなどを用いた質的分析も行う。		
Keywords	階級、社会階層、格差社会、貧困、社会移動、産業・労働		
Web page			
E-mail	hashimoto-kenji■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		

研究指導名	移住論	教授	森本 豊富
専門・専攻分野	移民研究	学位	Ph.D. UCLA
指導内容	国内外の移民研究動向を把握した上で、移民個人やエスニック集団について学際的な観点から検証する。現在は、北南米、特にアメリカ西海岸、ハワイ、ブラジルにおける和書やオーラルヒストリー・データの保存、整理と活用を UCLA Asian American Studies Center や Hawaii Japanese Center などと連携しながら実施している。そのほかに、移民と郷里との紐帯、トランスナショナルな移民の個人史、戦前の北米、ハワイ、ブラジルにおける日本語教科書『日本語讀本』の比較研究も行っている。これらの研究内容に近接した研究テーマに関してゼミで学び、フィールドで実践し、個別に指導する。		
Keywords	在外日系移民資料の保存・整理・活用、移民と郷里、トランスナショナル移民、個人史、日本語讀本		
Web page			
E-mail	toyotomi■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		

研究指導名	科学史・科学論	専任講師	加藤 茂生
専門・専攻分野	科学史／科学論	学位	
指導内容	近現代の科学史研究について指導を行う。特に、科学の全人間的性格をとらえ、文化・社会全体との関連を考えるとという角度から研究する。指導教員は、西欧近代科学が東アジアに移植されたとき、自然および人間についての知や文化がどう変容したのかという関心のもと、物理学の思想と自然観、精神医学の思想、科学・医学と植民地社会、科学における中心と周辺などについて、東アジアの研究者と密接に連絡をとりながら研究を行なっている。しかし、学生の研究テーマはそれらに限定せず、自主性にまかせて広く許容する。学生が科学史・科学哲学・科学社会学の基本的知識を持っていることを前提とし、一次資料と二次資料のリーディングセミナーを行なう。		
Keywords	科学史、科学技術史、科学思想史、科学の社会史、精神医学史、植民地科学、科学と帝国		
Web page			
E-mail	kato■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		

研究指導名	技術文化論	准教授	余語 琢磨
専門・専攻分野	文化人類学・考古学／技術史・技術文化論、生活文化論、医療人類学	学位	
指導内容	技術文化論とは、技術／テクノロジーとそれをめぐる世界観にもとづくモノ・ヒト・コトの民俗的・歴史的な相互作用を読み解く研究である。研究のテーマ・方法として、フィールドワークで得た資料や文献等の資料をもとに、1. 自然環境から資源を利用する技術、および関連する人間の営みを探求する生業史・技術研究、2. 技術や道具・生産物と、関連する社会組織・流通・消費・儀礼・表象・意味などの関係を探求する生活文化研究、3. 身体を加工・治療・介護する技術と情報および心身の相互作用を探求する医療人類学的研究などに関心を持ち、日本や東南アジアをおもなフィールドとして扱う学生を対象に、実践的な指導を行う。		
Keywords	民俗・歴史研究、日本・東南アジア研究、技術、道具、身体、生業、ものづくり、生活文化、伝統的環境知、世界観、民俗医療、病い		
Web page			
E-mail	takuma■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		

研究指導名	政治社会文化論	教授	村上 公子
専門・専攻分野	ドイツ現代史／ドイツ地域論	学位	
指導内容	社会構造の理解には、好むと好まざるとに関わらず、政治の理解が不可欠である。そして、現代社会の政治を理解するためには、現代にいたるまでの歴史的経緯を理解する必要がある。当研究指導では、この前提を踏まえて、実際の社会の分析を行う。具体例としては、ドイツおよび日本の社会を取り上げる。		
Keywords	政治制度、国民国家、全体主義、民主主義		
Web page			
E-mail	kimiko52■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		

研究指導名	都市人類学	准教授	竹中 宏子
専門・専攻分野	文化人類学／スペイン地域研究	学位	Ph.D.(政治・社会学)マドリッド大
指導内容	人類学史および人類学の理論的枠組みにおける都市人類学の位置づけを確認しながら、都市人類学の課題と展望を提示できる洞察力を養うことを目的としている。また、国内と海外の都市人類学をはじめとする都市文化の研究動向を比較しながら、学生自らの研究に独自の視点を取り込む指導も行う。フィールドの対象は主として都市となるが、都市が対概念を必要として存在することを考慮すると、「田舎」や「郊外」も広く都市を理解するフィールドとして設定可能である。		
Keywords	都市、都市文化、都鄙関係、文化人類学、伝統と近代、フィールドワーク		
Web page			
E-mail	h-takenaka■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		

研究指導名	開発人類学	准教授	原 知章
専門・専攻分野	文化人類学	学位	博士(文学) 早稲田大
指導内容	文化人類学の立場から、社会開発・人間開発、地域づくり、コミュニティデザインなどをふくむ広義の「地域開発」を対象とした研究をおこなう。おもにエスノグラフィーの方法を用いて、特定の地域を対象にした調査・研究を進め、持続可能な地域開発のあり方を追究する。また、地域開発にともなう文化変容のプロセスの記述・分析や、地域開発を支える思想の批判的検討にも取り組む。		
Keywords	地域開発、文化変容、文化人類学、エスノグラフィー		
Web page	www.f.waseda.jp/tomohara/		
E-mail	tomohara■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		

研究指導名	歴史人類学	専任講師	里見 龍樹
専門・専攻分野	文化人類学	学位	博士(学術) 東京大
指導内容	歴史人類学は、文化人類学に歴史学的な視点を取り入れた比較的新しい研究分野で、人間の文化を根本的に動的で可変的なものとしてとらえ直すことにより、文化人類学の研究方法を刷新した。この研究指導では、各自が興味のある研究対象を選定し、現在におけるフィールドワークと史料・文献研究を組み合わせることで、歴史人類学的なアプローチを自ら実践できるようになることを目指す。		
Keywords	文化人類学、歴史、環境、フィールドワーク、エスノグラフィー		
Web page	https://sites.google.com/site/ryujusatomi/		
E-mail	ryuju.satomi■waseda.jp(左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		

研究指導名	物質文化論	教授	谷川 章雄
専門・専攻分野	考古学・日本考古学	学位	博士(人間科学) 早稲田大
指導内容	本研究指導では、日本の近世考古学を中心に民俗学・歴史学などの隣接分野を含めた、モノと人間との関係を読み解く物質文化の研究方法について指導する。具体的には、考古学と民俗学・歴史学などとの学際的研究における資料論・方法論、日本の近世を中心にした都市遺跡・村落遺跡・生産遺跡などの諸遺跡および、それらを構成する遺構・遺物に関わるさまざまな研究や、関連する分野の研究を対象とする。指導教員の主な研究課題は、近世都市江戸の考古学的研究、近世墓制・葬制の考古学的研究である。		
Keywords	物質文化、近世考古学、生活文化、都市、墓制、葬制		
Web page			
E-mail	tanigawa■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		

研究指導名	表象文化論	准教授	中村 要
専門・専攻分野	フランス文学／フランス表象文化研究	学位	文学博士(パリ第7大学)
指導内容	人間を取り巻くさまざまな表象を分析することにより、文化の多様な様態を明らかにする。研究対象としては、主にフランスと日本の表象文化を研究する。さらに、フランスおよびフランス語圏を対象とする地域文化研究、異文化接触の問題も視野に入れる。 主な研究課題: 表象行為、表象装置、表象とメディア、表象の臨界、表象の受容、表象と共同体、ヨーロッパの現在。		
Keywords	表象、芸術、文化、創造、受容、他者と異文化		
Web page			
E-mail	kaname■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		

4. 健康・生命医科学研究領域

研究指導名	応用健康科学	教授	竹中 晃二
専門・専攻分野	健康心理学、応用健康科学、ヘルス・コミュニケーション、行動変容	学位	Ed.D. ボストン大 博士(心理学)九州大
指導内容	<p>生活習慣病予防に果たす健康行動全般に関わる心理・行動科学的研究を行っており、研究の焦点としては、1) 決定因(背景分析)、2) 成果(心理・生理学的効果の検証)、および 3) 介入(採択・継続のための効果検証)を 3 本柱としている。健康行動の中でも、とりわけ行動変容を目的とした介入研究に興味を持っており、「始めさせる」、「続けさせる」、「逆戻りを予防させる」という一連の流れを意識したプログラム開発および評価を行っている。介入研究を行う際には、まず対象者のニーズや特徴を明確にした上で(フォーマティブ・リサーチ)、行動変容に関わる様々な理論(社会的認知理論、トランスセオレティカルモデル、行動理論、ソーシャルマーケティングなど)を基にした介入プログラムを開発し、それらを実践することで評価に結びつけている。ある下位集団に適合したプログラム開発の他、動機づけ面接法による行動変容カウンセリング、また地域や集団を対象にしたキャンペーンタイプのアプローチなど、幅広い方法を用いて研究を行っている。具体的な研究課題としては、健康行動と QOL およびウェルネスの関係、セルフエフィカシーと心理的安寧、子どものストレス・マネジメント教育、勤労者のストレス対処、高齢者の健康関連 QOL およびウェルネス、リハビリテーションにおける行動変容、障がい者の QOL およびウェルネス、女性の健康問題など、心理社会的研究を行い、最近では、特にソーシャルマーケティングを基にしたメンタルヘルス・プロモーション(こころの ABC 活動)やスモールチェンジ方略を用いた健康づくり行動の普及啓発を行っている。</p>		
Keywords	健康行動変容、ヘルス・コミュニケーション、スモールチェンジ方略、ストレスマネジメント、メンタルヘルス・プロモーション、アドヒアランス		
Web page	http://takenaka-waseda.jp/		
E-mail	takenaka■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		

研究指導名	基礎老化学	教授	千葉 卓哉
専門・専攻分野	基礎老化学／実験病理学／抗加齢医学／分子生物学／神経化学／分子腫瘍学	学位	博士(医学)京都大
指導内容	<p>マウスなどの実験動物に対して、食餌を自由に摂食させた際に消費する量から 30%程度減らした食餌量を与えること(カロリー制限)は、寿命を延長させるとともに、老化に伴う様々な疾患の発症を遅らせることが知られている。このカロリー制限による抗老化作用の分子メカニズムを、各種ストレス応答の変化と関連付けて明らかにすることで、ヒトを含めた高等生物における老化制御機構の解明を目指している。また、実際に食事量を減らすことなくカロリー制限の抗老化作用を模倣する物質(カロリー制限模倣物)の開発を目指した研究も行っている。さらに、ヒトにおける早老症を引き起こす原因遺伝子として DNA の複製、修復、組換えに関与するタンパク質が複数同定されていることから、これらのタンパク質の機能解析を通じて DNA 傷害性ストレスによるゲノムの恒常性維持機構の破綻が、どのようにして老化を促進するのかについて研究を行っている。</p>		
Keywords	老化、老化関連疾患(ガン、生活習慣病、神経変性疾患)、カロリー制限、老化疾患改善剤、ストレス応答、細胞周期、DNA 損傷、放射線生物学		
Web page	http://www.f.waseda.jp/takuya/index.html		
E-mail	takuya■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		

研究指導名	細胞制御学	教授	原 太一
専門・専攻分野	細胞生物学、生化学、分子生物学、食品科学、神経科学	学位	博士(医学)九州大
指導内容	急速な少子高齢化の進展により、医療費の増加や支援人材不足などの様々な社会問題が深刻化している。当研究指導では、加齢性疾患や神経難病の病態発症機構を理解すべく、オートファジーなどの細胞内品質管理機構に着目した研究を行う。また、これらの疾患の予防・治療にむけた機能性食品開発やバイオインダストリーへの応用研究を行い、ヘルスケアや医療へ還元することを目指す。これらの取り組みを通じて、生命科学のスキルを武器に健康長寿社会の実現に貢献できる、高度人材育成に努める。		
Keywords	神経難病、オートファジー、機能性食品、ヘルスケア、バイオインダストリー		
Web page			
E-mail	harata1■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		

研究指導名	体温・体液生理学	教授	永島 計
専門・専攻分野	環境生理学、神経生理学、医学生理学	学位	博士(医学)京都府立医大
指導内容	人は厳しい外的環境(寒冷、暑熱、飢餓など)の影響を受けながら、常に身体の内的環境を一定に保つ機能を発達させて生き長らえてきた。その中でも体液の組成や体温を保つ機能は非常に重要で優れたものと考えられている。研究ではこの2つの機能の詳細を明らかにしていく基礎科学的研究とともに、人にとって快適な環境とは何か？環境の変化(温暖化、シフトによる光環境など)に伴うと考えられる疾病をどう予防していけばよいのか？を明らかにする応用的研究をおこなう。		
Keywords	体温、体液、生体リズム、熱中症、冷え性、脱水症、飲水、温熱的快適性、運動		
Web page	http://www.f.waseda.jp/k-nagashima/		
E-mail	k-nagashima■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		

研究指導名	分子神経科学	教授	榊原 伸一
専門・専攻分野	神経発生／神経解剖／組織学	学位	博士(医学)東京大
指導内容	我々ほ乳類の胎児の脳や脊髄の中にわずかな数存在する神経幹細胞は、脳や脊髄を構成する全ての細胞の源となる母細胞と考えられている。複雑な機能と精緻で美しい形態をもつ我々の脳は、どのようにしてこの神経幹細胞から作り上げられていくのだろうか？また近年の再生医療研究の上でも重要な細胞として、神経幹細胞に注目が集まっている。しかし、その脳内での存在場所や、幹細胞を維持するために必要な遺伝子発現の制御機構についてはわかっていないことが多い。我々は神経幹細胞に強く発現する遺伝子を見つけだし、その遺伝子の構造、細胞内での働き、脳が形成される際の働きを明らかにしていこうと考えている。分子生物学的手法、培養細胞を用いた細胞生物学的手法、遺伝子発現を操作した動物の脳を顕微鏡観察する組織学的、形態学的手法など様々な方法を駆使して、神経幹細胞の働きを解明していくことで、脳や脊髄の生い立ちを理解したいと考えている。		
Keywords	神経幹細胞、中枢神経系、遺伝子発現、細胞分化		
Web page			
E-mail	sakakiba■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		

研究指導名	認知神経科学	教授	大須 理英子
専門・専攻分野	認知神経科学	学位	博士(文学)京大
指導内容	計測技術の向上、認知神経科学・計算神経科学といった新しい領域の展開により、神経系のシステムの理解が進んでいる。脳には、変化する外界に柔軟に対応し、新たなことを学習し、失われた機能を取り戻そうとする力があること、またその仕組みが明らかになりつつある。本研究指導では、これらを背景に、新たな仮説を設定し実験的に解明する・心身機能の評価法を開発する・機能維持・回復手法を提案する、といったことをターゲットに、実証的な研究を進める。		
Keywords	脳科学、心理学、システム神経科学、身体性、ニューロリハビリ、ニューロマーケティング		
Web page			
E-mail	r.osu■waseda.jp(左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		

研究指導名	医療人類学	教授	辻内 琢也
専門・専攻分野	医療人類学／心身医学／ヘルスプロモーション	学位	博士(医学)東京大
指導内容	健康や病い(health and illness)、そして医療や臨床の現実は、身体的・心理的・社会的・文化的(bio-psycho-socio-cultural)な複合産物として構築されている。医療人類学では、その複合産物に影響を与える生物生態学および社会文化的要因について、人類の歴史を背景に比較文化的に探求する。 本研究指導では、東日本大震災・原発事故によるトラウマやソーシャルサファリング(社会的苦悩)、3.11以降の人々や地域の心理・社会・文化的復興を目指した医療福祉連携支援、災厄や苦悩の表象としての病いの語り(narrative)、様々な補完代替医療をも含めた日本・世界各地における健康増進(health-promotion)運動、近代の生物医学システムの抱える諸課題、などを研究対象とする。		
Keywords	ソーシャルサファリング、トラウマ、災害の人類学、病いの語り、ナラティブ・ベイスト・メディスン(NBM)、保健医療行動、質的心理学研究、補完代替医療、世界の伝統医学、医療の文化人類学、スピリチュアリティ		
Web page	http://www.waseda.jp/sem-tsujiuchi/		
E-mail	tsujiuchi■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		

研究指導名	健康管理医学	教授	河手 典彦
専門・専攻分野	健康管理医学、外科学、呼吸リハビリテーション、臨床細胞診断学	学位	医学博士(東京医科大学)
指導内容	人がその人生を謳歌するためには、単なる生命の延長に留まらず所謂健康寿命を延長することが肝要であろう。健康管理医学は、正にこの目標を実現するための方策を研究する一領域として捉えることができる。健康管理医学研究には多岐にわたる分野が存在するが、何れも、疾病に対する予防、診断、治療といった実践の臨床医学・臨床医療に大きく関連していると言っても過言ではないであろう。本研究指導は臨床医学的要素が大きいことが特色であり、Medical Aspects of Health Maintenanceをその基幹とする。各種疾病の臨床医学関連の多くの知識を習得することが重要な目標である。そしてこれらの健康管理医学に関する領域の中から自身の興味ある研究課題を選定し、この主題に対して論文作成指導を行っていく。		
Keywords	臨床医学(治病医学)、健康診断、癌、生活習慣病、疾病予防		
Web page			
E-mail	kawate■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		

5. 健康福祉科学研究領域

研究指導名	緩和医療学・臨床死生学	教授	小野 充一
専門・専攻分野	緩和医療学、臨床死生学、小児外科学	学位	医学博士(東京医科大)
指導内容	医療専門職を目指す、ないし従事経験をもつ学生に対しては、緩和医療学の基礎的知識および基本姿勢の修得を目標としながら、臨床現場における関係性と結果の研究およびアウトカム評価の研究を指導する。また、社会福祉あるいはその他の健康福祉関連学の一環として、臨床死生学の観点から本講座の受講を希望する学生には、人間の死や生の境界領域で直面する様々なコミュニケーションのあり方やモチベーションマネジメントシステム、QOL評価研究を中心とした研究を指導する。		
Keywords	緩和医療、臨床関係-結果論、QOL		
Web page			
E-mail	m-ono■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		

研究指導名	社会医学	教授	扇原 淳
専門・専攻分野	社会医学	学位	博士(医学)順天堂大
指導内容	個人および集団(地域・国家レベル)の健康・福祉水準の向上に寄与することを目指した社会医学領域の研究を支援する。具体的な研究指導の内容としては、1)ソーシャル・キャピタルと健康との関連、2)医療・福祉施設における TQM 展開、3)福祉施設における研修プログラムの開発、4)多世代多文化交流による健康開発、5)地域包括ケアシステムの推進方策に関する研究、6)災害時要援護者対策に関わる個人情報取扱いに関する研究等が挙げられる。このように幅広いテーマを扱うが、基本的には学生それぞれが独立したフィールドでの活動を尊重し、それに基づいた研究テーマに取り組むことを支援する。		
Keywords	ソーシャル・キャピタル、総合的品質経営、福祉人材研修プログラム、地域包括ケアシステム、福祉社会開発、国際健康開発、食文化と健康、東洋医学、地域活性化		
Web page	http://www.ogiharalab.com/		
E-mail	aogi■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		

研究指導名	予防医科学・応用生理学	教授	掛山 正心
専門・専攻分野	予防医科学、脳神経科学	学位	博士(人間科学)早稲田大
指導内容	社会的ストレスや化学物質曝露と「こころ」の発達の関係について、動物実験による知見とともに、赤ちゃんやお母さん、患者さんを対象としたヒト研究も行い、脳の発達と健康からの逸脱についての生物学的基盤の解明に取り組む。		
Keywords	脳発達、ヒト研究、ゲノム解析、マウス実験、認知的柔軟性、社会性、高次認知機能、環境汚染物質		
Web page			
E-mail	kake■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		

研究指導名	バイオエシックス・生命の哲学	教授	森岡 正博
専門・専攻分野	現代哲学	学位	博士(人間科学)大阪府立大
指導内容	<p>研究指導は以下の二つの領域で行なう。</p> <p>(1)「バイオエシックス／科学技術論／研究倫理学」・・・生命倫理の諸問題(脳死、生殖技術、生命改造、能力増強、ジェンダー、障害など)、環境倫理／環境哲学の諸問題(人間と自然の関係、将来世代の問題、動物の権利など)、科学技術と人間の幸福に関する問題、現代文明論。</p> <p>(2)「生命の哲学／現代哲学／現代思想／現代倫理学／人間学」・・・生命の哲学の諸問題(生と死、生きる意味、生命とは何か、自殺など)、現代哲学／思想／倫理学／人間学の諸問題(人間とは何か、どういう社会がよい社会なのか、存在とは何か、時間とは何か、愛とは何か、悪とは何かなど)。</p>		
Keywords	生と死、脳死、生きる意味、科学文明論、いのちの尊厳、存在論		
Web page			
E-mail	morioka■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		

研究指導名	福祉産業学	教授	可部 明克
専門・専攻分野	ロボット工学、技術経営学(MOT: Management of Technology)	学位	博士(学術)早稲田大
指導内容	<p>医療・福祉分野でのロボット応用が始まっている。人間をサポートするパートナー・ロボットを実現するには実用的な技術開発がポイントとなり、市場動向やユーザーニーズの見極めも必要不可欠である。このため、1)国内や欧米など海外の医療福祉機関のニーズ把握、2)理工学総合研究所などを通じ、ロボット・IT・センサメカ等と医療・福祉ロボットの開発を共同で実施、3)各種研究開発プロジェクトへの参画を通じて、ロボットのソフトウェア・ハードウェアおよびネットワーク対応部分の開発を行う。具体的には、特定の在宅医療用ロボット、ネットワーク機能を活用した医療・福祉用ロボットなどの開発プロジェクトに参画して研究開発を行う。また、社会人の受講生にも参加しやすいよう配慮する。</p>		
Keywords	パートナー・ロボット、医療・福祉ロボット、ネットワーク、事業化		
Web page	http://www.f.waseda.jp/akiyoshi.kabe/		
E-mail	akiyoshi.kabe■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		

研究指導名	リハビリテーション科学	教授	村岡 慶裕
専門・専攻分野	リハビリテーション科学、福祉工学	学位	博士(工学)慶應義塾大
指導内容	<p>ヒトは、感覚受容器・脳・神経系・筋肉を備えた一連のシステムであり、出力に相当する運動(行動)は、感覚受容器からの入力と経験的学習による自己組織化により変容します。最適な出力を促すためには、適切な能力評価による到達目標の設定と、外部から適切な入力を促す環境設定、支援機器などによる運動の制限や補助・代替・補完、そして教示者の促す自発的な反復運動による学習が必要です。</p> <p>本研究室では、ヒトをシステムとして捉え、望ましい出力や状態を引き出すために、生体計測を通して、生体システムの解明と、その最適化手法や評価手法の提案、さらに、付加すべき機器の開発を行い、人の健康と社会福祉の向上に貢献します。</p>		
Keywords	生体計測・制御工学、医療福祉機器開発、生体システム、支援工学、電気生理学		
Web page	http://www.f.waseda.jp/y.muraoka/		
E-mail	y.muraoka■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		

研究指導名	児童家庭福祉論	教授	川名 はつ子
専門・専攻分野	子どもの社会的養護、障害児福祉	学位	博士(医学)帝京大
指導内容	「子どもの権利条約」を基盤に据えて、ソーシャルワークの研究と実践に取り組む。家庭環境や心身にハンディをもつ子どもを自宅に引き取って育てている養育家庭や里親ファミリーホームの現場に向いて参与観察や面接調査により養子・里親制度を分析し、当事者のニーズに沿った援助のあり方を探る。また、成人期知的障害者が自ら取り組んでいる健康学習会等の、施設職員、保健所、自助組織の連携による支援活動に参加し、知的障害・発達障害をもつ子どもたちのよりよい将来像の形成に参加する。学童期の子どもの支援に有効なスクールソーシャルワークのあり方についても検討し、教育と福祉の連携を図る実践的研究を行なう。		
Keywords	社会的養護、家庭養育、児童虐待、愛着形成不全、ソーシャルネットワーク、障害児教育、インテグレーション、スクールソーシャルワーク		
Web page	http://www.kawanalab.org/		
E-mail	kawana■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		

研究指導名	社会保障政策論	教授	植村 尚史
専門・専攻分野	健康福祉行政、社会保障政策	学位	
指導内容	社会保障政策研究は、年金、医療、介護、社会福祉等の具体的な政策の目的、効果、国全体の政策の中での位置づけ等を、理論的、実証的に分析・評価し、制度改革等への示唆を得るものである。したがって、研究は実践的なものであり、現実の政策と密接に関わり、官庁統計や各種審議会等の資料、データを用いることも多い。また、法律学、経済学、社会学等の手法を用いた学際的な研究となる。具体的なテーマを選定し、データの利用、資料の分析、理論の展開等の政策研究の手法を学びながら、実際の政策への根拠ある提言につながる研究を行う。		
Keywords	社会保障、福祉国家、公共政策、年金、医療保険、介護保険		
Web page	http://www.f.waseda.jp/uemura-h/index.html		
E-mail	uemura-h■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		

研究指導名	健康福祉マネジメント論	准教授	松原 由美
専門・専攻分野	医療介護福祉経営、政策	学位	博士(福祉経営)日本福祉大学
指導内容	医療・介護・福祉分野のメインプレーヤーである非営利組織の経営のあり方、特に非営利組織の利益概念(将来の必要事業に充当されるということで実質はコスト、利益の具体的中身、事業を安定継続させるに最低限必要な利益という必要利益の概念)を踏まえ、非営利組織の経営分析手法を用いて、実証的で独創的な研究を目指します。		
Keywords	経営、経営分析、非営利組織、必要利益		
Web page			
E-mail	y-matsubara■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		

研究指導名	精神保健福祉論	教授	田中 英樹
専門・専攻分野	地域福祉、精神保健福祉、ソーシャルワーク	学位	博士(社会福祉学) 日本社会事業大
指導内容	精神保健福祉専門教育は、精神障害及び広く国民の精神的健康を対象に、社会福祉の視座からその求められる解決課題に接近する学問である。大学院教育では、将来の福祉現場での指導的立場やスペシャリストの養成もしくは、教育と研究における基礎能力を備え創造性豊かな自立した研究者を育成する立場から、教育方法もよりフレキシブルに展開したい。教育方法では、精神保健福祉研究で必要となる問題意識の涵養、思考の幅を広げ豊かな感性を培うこと、共同研究できる能力、教育指導の方法を含め必要な能力を身につけること、実践現場での力量形成などを主眼としたい。具体的には、精神科リハビリテーションを中心とした根拠に基づく臨床実践(EBCP)、精神障害者のニーズオリエンテッドの立場、精神保健福祉の研究手法や研究論文の書き方、学会や学術誌での発表、より実践的な講義や演習を展開したい。		
Keywords	メンタルヘルス、精神障害者、ストレングスモデル、コミュニティソーシャルワーク		
Web page			
E-mail	t-hideki■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		

研究指導名	ソーシャルワーク論	准教授	岩崎 香
専門・専攻分野	ソーシャルワーク、障害者福祉	学位	博士(人間学)大正大
指導内容	福祉サービスの供給システムの転換により、福祉も契約の時代を迎えた。サービスを提供する側と受ける側のパートナーシップの形成は共生社会を志向する現在の国際的な潮流の中でも強調されている。その実現には他職種、領域との連携を念頭においた支援システムの構築が待たれるが、システムがクライアントの真のニーズ実現に向けて機能するために必要とされるソーシャルワーカーの実践力とは何だろうか。ソーシャルワーク理論と実践の循環を促し、ミクロとマクロのソーシャルワーク実践を取り結ぶソーシャルワークの専門性を探究する。		
Keywords	アドボカシー、成年後見制度、ケースワーク、グループワーク、障害者、契約、ソーシャル・インクルージョン、コンサルテーション、メンタルヘルス		
Web page			
E-mail	k-iwasaki■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		

研究指導名	子どもの健康福祉学	教授	前橋 明
専門・専攻分野	子どもの健康福祉学、幼児体育、健康福祉教育	学位	博士(医学)岡山大
指導内容	子どもたちが心身ともに健康で生き生きとした暮らしが送れるように、また、子どもたちが社会生活をしていく上で必要なコミュニケーション能力を育て、豊かな心を持ち、たくましく生きることができるよう、これまで数多くの児童福祉研究や保育・教育研究、幼少児健康教育研究などがなされ、あわせて児童家庭福祉施策や小児保健施策が講じられてきた。しかし、近年になって、子どもたちの抱える・抱えさせられている心身や生活上の問題は、非常に複雑・多岐にわたり、新たな展開が迫られている。 こうした社会や子どもたちの生活の背景を踏まえながら、近年のこの分野での研究動向について指導し、さらに各自の研究テーマに基づいて、研究計画の立案・実践と論文の作成、成果の発表、社会貢献ができるよう、研究指導を展開する。		
Keywords	子どもの健康福祉、子どもの健全育成、保育、幼児体育、幼少児健康教育、健康福祉教育、生活リズム、子育て支援、幼少児福祉教育		
Web page			
E-mail	maehashi■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		

研究指導名	老年社会福祉学	教授	加瀬 裕子
専門・専攻分野	老年学、社会福祉学、老人福祉論	学位	博士(人間科学)早稲田大
指導内容	老年学とは、高齢者について研究するだけでなく、全ての年代を通じて総合的に老化・加齢について実証的に明らかにしようとする学問である。老年学についての最近の研究を取り上げ、少子・高齢社会を解明する方法について指導を行うとともに、社会福祉理論およびソーシャルワーク理論についての基礎知識を学び、日常の高齢者をめぐる社会福祉実践を捉えなおすことを、研究課題とする。ソーシャルワークの実践モデルについて学び、実践的技法として活用し、フィールドワークを行う。認知症高齢者への回想法、農村における高齢者活動調査等を行い、科学的根拠に基づいた実践をおこなう力と、実践に役立つ研究を行う力の習得をめざす。		
Keywords	高齢者、生涯発達、サクセスフル・エイジング、在宅ケア、認知症 BPSD、ケアマネジメント		
Web page			
E-mail	hkase■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		

研究指導名 (複数教員 研究指導)	社会精神保健福祉学					
	教授	田中 英樹 (筆頭)	教授	扇原 淳	教授	辻内 琢也
専門・専攻分野	地域福祉、精神保健福祉、ソーシャルワーク		社会医学		医療人類学／心身医学／ヘルスプロモーション	
学位	博士(社会福祉学)日本社会事業大		博士(医学)順天堂大		博士(医学)東京大	
指導内容	わが国における健康と福祉にかかわる今日の状況は、少子高齢化・人口減少社会への突入を背景に、家族サイズの縮小や限界集落の出現など家族と地域機能の弱体化が進行している。特に単身生活者の増加と地域のつながりの希薄化は、虐待や疾病や自殺や孤立死等のリスクを増大させ、生活習慣病に代表される慢性疾患の管理を困難にさせ、年金や介護の問題を一層深刻化させ、ケアの地域格差も拡大させてきている。こうした状況を解決するには、従来のように施策の縦割りや一機関一職種が自己完結的に展開する対応ではまったく役に立たない。今後は、全世代全対象型地域包括的ケア支援の構築や全人的医療の提供が求められている。本指導では、こうした状況に立ち向かうために、社会精神保健福祉学の視点から、アジア各国の風土・文化を踏まえた保健・医療・福祉などの社会サービス諸課題の比較や専門職連携教育の推進などを専門領域の垣根を越えて協働研究していきたい。					
Keywords						
Web page						
E-mail	田中： t-hideki■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください) 扇原： aogi■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください) 辻内： tsujiuchi■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)					

6. 臨床心理学研究領域

研究指導名	学校カウンセリング学	准教授	桂川 泰典
専門・専攻分野	学校カウンセリング学, 発達障害	学位	博士(人間科学) 早稲田大
指導内容	教育・心理臨床場面における具体的支援について、背景理論と事例的理解を積み重ね、臨床実践的研究方法の習得を目指す。具体的には、1) 発達・心理アセスメント, 2) 療法的アプローチ, 3) 家族の心理社会的支援, 4) 教育臨床コンサルテーションの枠組みから学ぶ。また、自己のカウンセリングや支援について省察を行えるよう、多様な社会・文化の中に生きる人を複眼的に理解できる基礎的教養と理解への態度を涵養する。		
Keywords	学校カウンセリング, 発達障害, 特別支援教育, 教育臨床, 文化発達臨床, プロセス研究, ナラティブ論		
Web page			
E-mail	katsuragawa■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		

研究指導名	行動臨床心理学	教授	嶋田 洋徳
専門・専攻分野	臨床心理学, 認知行動療法, 行動療法, 健康心理学	学位	博士(人間科学) 早稲田大
指導内容	臨床心理学におけるさまざまな問題に対して、(認知)行動論的アプローチを用いて研究と心理臨床実践を行う。特に、不安、抑うつ、怒り、心理的ストレス、学校不適応、職場不適応、心身症、発達障害などについて、認知行動療法、行動療法の観点から理解される症状や問題行動の理論モデルの検討、治療モデルの検討、症状や問題行動の形成と維持、治療に及ぼす個人差変数の検討などが主なテーマとなる。主な研究課題は、認知や行動の問題に起因すると考えられるさまざまな症状や不適応行動の改善、適応行動や健康行動の育成に関する認知行動療法や行動療法の基礎と応用である。		
Keywords	認知行動療法, 行動療法, 心理的ストレス, 学校不適応, 職場不適応, 健康行動		
Web page	http://www.f.waseda.jp/simac/		
E-mail	simac■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		

研究指導名	医療心理学・職場メンタルヘルス学	教授	鈴木 伸一
専門・専攻分野	臨床心理学(認知行動療法)、医療心理学、行動医学、臨床ストレス科学	学位	博士(人間科学) 早稲田大
指導内容	うつ病、不安障害、心身症などのさまざまなストレス関連疾患の発症・維持・悪化に関与する諸要因の影響性を検討するとともに、ストレス関連疾患の予防・治療・リハビリテーションに向けた認知行動療法の方法論について研究する。また、研究の焦点としては、 <u>身体疾患患者のメンタルケア</u> および <u>職場のメンタルヘルス</u> を実践フィールドと位置付け、単に精神衛生上の問題のみを取り上げるのではなく、成人が抱えやすい生活上の問題や罹患しやすい心身の問題の予防およびケアに焦点を当てたトータル・ヘルス・プロモーションを目指した最先端の研究および臨床実践を行う。これらを実現するために、「うつ・不安のメカニズムに関する基礎研究グループ」、「身体疾患患者のメンタルケアシステムに関する研究グループ」、および「職場のメンタルヘルスに関する研究グループ」を構成し、各プロジェクトとリンクした個別の研究テーマを選定し、取り組んでいく。具体的には、うつ病や不安な障害、ストレス関連疾患等への認知行動療法の効果の検討、がんや心臓病など重症身体疾患を抱えた患者へのメンタルケアシステムの開発、うつ病・自殺予防に向けた地域および企業でのストレスマネジメントや復職支援、生活習慣病の予防・治療・リハビリテーションに関する行動医学的支援などの研究領域が挙げられる。		
Keywords	認知行動療法, 医療心理学, 職場メンタルヘルス, 臨床ストレス科学, 行動医学		
Web page	http://www.f.waseda.jp/ssuzuki/		
E-mail	ssuzuki■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		

研究指導名	心身医学	教授	野村 忍
専門・専攻分野	心身医学、行動医学、臨床心理学	学位	博士(医学)東京大
指導内容	心身医学とは、患者を身体面だけではなく、心理面、社会面をも含めて総合的、統合的に見ていこうとする医学である。全ての患者には、多かれ少なかれ心理社会的な問題が関与しているので、心身医学は臨床医学の基幹である。心身医学の主な対象は、心身症(身体疾患の中で心理社会的要因が密接に関与している病態)であるが、身体症状を主とする神経症・うつ状態も含める。心身医学についての最近の研究を取り上げ、心身相関、診断・評価法、心理療法などの領域について学習する。また、症例研究を取り上げ、その診断・治療法について考察する。これらを通して、心身医学的診断・治療法を理解することを目的とする。主な研究課題は、ストレスの身体疾患におよぼす影響の評価、ストレス評価、ストレス・マネージメントによる疾患予防の可能性の検討。		
Keywords	ストレス、心身症、ストレス・マネージメント、心身相関		
Web page			
E-mail	nomura3■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		

研究指導名	認知行動カウンセリング学	教授	根建 金男
専門・専攻分野	心理学／認知行動カウンセリング(認知行動療法)・構成主義的認知行動カウンセリング(認知行動療法)・行動療法・セルフコントロール	学位	博士(人間科学)早稲田大
指導内容	認知行動カウンセリングは、行動カウンセリングと精神療法などの認知的アプローチが融合して形成されたアプローチであり、精神疾患のある人に限らず健常者をも広く対象とする。近年は、認知行動カウンセリングを支える認知行動理論の発展もめざましい。特に、不安障害、強迫性障害、統合失調症などの新しいモデルが提示され、それらをめぐる実証研究も盛んである。一方、構成主義的認知行動カウンセリングの動向も活発になってきた。構成主義では、人の一生涯の成長を視野にいたうえで、人が世界をどう構成(認識)しているかをその人の側から真剣に理解し、アプローチする。この認識論は、エビデンス重視の典型的な認知行動カウンセリングの難点を補い発展させるうえで重要である。この研究指導では、不安、怒り、抑うつ、幸福感などを対象とした、認知行動カウンセリングや構成主義的認知行動カウンセリングに関する研究を実施し、修士論文・博士論文をまとめることができるよう指導する。		
Keywords	認知行動学、認知行動カウンセリング(認知行動療法)、構成主義的認知行動カウンセリング(認知行動療法)、行動療法、セルフコントロール、自己教示訓練、シャイネス、ストレス、不安障害、強迫性障害、幸福感		
Web page	http://nedatelab.web.fc2.com/index.html		
E-mail	nedate■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		

研究指導名	行動医学	教授	熊野 宏昭
専門・専攻分野	臨床行動分析、メタ認知理論、応用脳科学、行動医学	学位	博士(医学)東京大
指導内容	行動医学とは、精神医療と身体医療の双方に臨床心理学を適用する専門領域である。ここでの臨床心理学は、科学としての方法論に基づくことが前提となり、介入法としては、慢性疾患の治療支援や痛みに伴う回避行動など即時的な解決が難しい問題にも適用されるために、マインドフルネスやアクセプタンスといった認知の機能を変える技法を含む「新世代の認知行動療法」が重視される。具体的には、アクセプタンス&コミットメント・セラピー、メタ認知療法、マインドフルネスの奏功メカニズムに関わる基礎研究、不安障害、気分障害、摂食障害、糖尿病、メタボリック症候群など、改善のために生活のセルフコントロールの必要性が大きい精神疾患や生活習慣病等に関わる調査・実験・介入研究、注意訓練やマインドフルネスが前頭葉機能と心理行動的な介入効果に及ぼす影響の研究などを行う。		
Keywords	臨床行動分析、メタ認知、注意制御機能、マインドフルネス、前頭葉機能、行動医学		
Web page	http://hikumano.umin.ac.jp/		
E-mail	hikumano■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		

研究指導名	行動分析学（博士後期課程）	准教授	大月 友
専門・専攻分野	行動分析学	学位	博士（臨床心理学）広島国際大
指導内容	<p>行動分析学を理論的基盤とし、さまざまな心理・行動的問題（不安・抑うつ・不適応など）、発達的問題を環境との相互作用という観点から“理解”し“影響を与える”ことを目的とした研究と臨床実践を行う。特に人間の言語や認知、および、それらがどのように行動に影響を与えるかについて、関係フレーム理論を援用した応用行動分析的アプローチ（臨床行動分析やアクセプタンス&コミットメント・セラピーを含む）を展開する。具体的には、心理的問題や精神病理における言語・認知の“機能”に関する研究、潜在的認知に関する行動分析学的研究、心理的問題に対する介入法の検討、言語や認知的側面に対する発達の視点・支援に関する研究、などを関係フレーム理論の視点から研究を行う。</p>		
Keywords	行動分析学、関係フレーム理論、臨床行動分析、行動療法		
Web page			
E-mail	tomu.ohtsuki■waseda.jp（左記■部分を@に変更してメールを送ってください）		

研究指導名	臨床発達心理学（博士後期課程）	特任教授	井原 成男
専門・専攻分野	発達臨床心理学	学位	
指導内容	<p>子どもの発達を、実証的に研究しています。35年にわたる病院小児科の勤務が研究と発想の核になっています。アタッチメントとそこからの卒業、また発達障害の包括的理解と理論構築に関心があります。心理療法論を科学的に構築するのが夢です。発達心理学と臨床心理学の統合、①発達テストからみた発達障害論、②アタッチメントとそこからの卒業、③育て直しと発達心理学的視点、④ウィニコットと移行対象、子どもの執着行動の研究、⑤心理療法論の統合的理解をライフワークとして目指しています。</p>		
Keywords	発達臨床心理学、アタッチメント、ウィニコット、移行対象、中間領域、育て直し		
Web page			
E-mail	nariowaseda■waseda.jp（左記■部分を@に変更してメールを送ってください）		

7. 感性認知情報システム研究領域.

研究指導名	生体情報工学	准教授	百瀬 桂子
専門・専攻分野	生体情報工学	学位	博士(工学)早稲田大
指導内容	生体情報工学とは、生体システムの計測・処理・制御の解析を工学的手法で行うとともに、その結果から得られた生体システムの知見を工学的に応用することを目指すものである。本研究指導では、主にヒトの感覚機能や知覚情報処理を脳・神経科学的側面からとらえて解析・解明し、医療やヒューマンインタフェース分野で活用するための研究を行う。感覚・知覚情報処理を客観的にとらえる技術として、生体信号計測(脳波、眼球運動など)と生体モデルによるシミュレーションを利用している。そのため、感覚機能に関わる生理的構造や神経情報処理の知見に加えて、生体信号計測技術と信号処理論についての研究指導を行う。現在の主な研究テーマは、脳波による運動錯視の知覚量の検出、眼球運動に現れる選好性の調査、母子間のコミュニケーション発達に関わる身体動作リズムの定量分析などである。		
Keywords	生体信号計測、生体信号処理、視知覚、視機能		
Web page			
E-mail	momose■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		

研究指導名	感性認知科学	教授	齋藤 美穂
専門・専攻分野	色彩心理学、感性研究、対人認知、国際比較研究、環境心理学	学位	博士(人間科学)早稲田大
指導内容	感性研究の中でも中心となる色彩は文化を超えて、ノンバーバルコミュニケーションに役立つ、言わばカルチャーフリーなツールである。この色彩をどのように活用していくか、その利用方法やその教育方法に関して考える時、色彩に対する認知や感性的な側面を十分に検討する事が重要なテーマとなる。特に文化的差異を視野に入れる事は、グローバルな視点を持って行う色彩教育場面において、これからはますます必要になると考えられる。これらの研究テーマに沿って吟味された各人の研究について、実験計画や理論の検討と討議を重ね、さらに学会発表や投稿論文に対する助言と指導、学位論文に対する直接的な指導を行っていく。文献などは洋書・外国雑誌を使用する事が多いので英語力は高い方が望ましい。主な研究課題は、色彩やデザインに関する認知、表情に対する認知、シンボルやノンバーバルコミュニケーションとしての色彩、Web 上の色彩の利用方法、香り・音・色の心理的効果や肌の色の嗜好等の感性研究、空間認知、またこれらの国際比較などが挙げられる。		
Keywords	色彩認知、環境認知、対人認知、文化比較、感性研究		
Web page			
E-mail	miho■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		

研究指導名	言語情報科学	教授	菊池 英明
専門・専攻分野	言語情報科学、人工知能、ヒューマンエージェントインタラクション	学位	博士(情報科学)早稲田大
指導内容	情報化社会の進展に伴い音声言語メディアの役割は今後一層重要になる。言語情報科学とは、情報科学を視座の中心に据えて、音声言語メディアについて総合的に考察し、人間の言語行動をモデル化しようとする学問分野である。具体的には、言語学、心理学、認知科学、脳科学といった人間科学の基礎学問を前提としながら、コンピュータ・情報処理技術の導入や開発を通じて、音声言語の理解・生成・インタラクションなどのモデルを構築していく。主な研究課題は、会話メカニズムの解明、人と機械の対話インタフェース、音声による感情・態度の理解・表出モデル、知的検索エンジンなど。		
Keywords	音声、言語、コミュニケーション、インタラクション、会話、音声言語、データベース、情報検索、ロボット		
Web page	http://www.f.waseda.jp/kikuchi/		
E-mail	kikuchi■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		

研究指導名	社会的実践認知科学	教授	宮崎 清孝
専門・専攻分野	認知科学／認知心理学	学位	
指導内容	現代の認知科学では人間の認知の働きを人間個人の内部だけに限られたものではなく、人間と周りの世界のシステムとして捉える。この研究指導では特に、社会と人間とのシステムとしての認知に焦点を当てる。研究の対象は様々な社会的実践であるが、特に学校での社会的実践としての教授学習過程、看護・福祉場面、アート創造場面などでの認知の働きを問題にしている。		
Keywords	文化社会的アプローチ、状況論、社会的実践、教授学習過程、アート、創造性		
Web page			
E-mail	miyasan■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		

研究指導名	日常記憶心理学	准教授	杉森 絵里子
専門・専攻分野	認知心理学	学位	博士(教育学)京都大
指導内容	我々は、現実世界において、「やり忘れ」「重複」を防ぐためにも空想と現実を区別する必要がある一方で、仮想世界において空想と現実を区別しないことで、空想の世界を楽しむこともできる。人が行為実行時に無意識に得られるとされている「自己主体感(自分こそが行為を実行している感覚)」と、他者の行為実行を観察している時に無意識に得られるとされている「共感」が、現実世界と仮想世界においてどのように働くことで、空想と現実を正確に区別したり敢えて区別せずに楽しんだりできるのかということ、個人差という視点から検討する。		
Keywords	記憶、ソースモニタリング、行為記憶、個人差、アバタ、実験心理学		
Web page	https://sites.google.com/a/psybox.org/eriko-sugimori/		
E-mail	sugimori■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		

研究指導名	心理行動学	教授	鈴木 晶夫
専門・専攻分野	心理行動学、実験心理学、感情心理学、健康心理学、社会心理学、身体心理学	学位	博士(人間科学)早稲田大
指導内容	人間を研究する際に、大きく認知的、行動的、生理的側面に分類できよう。それぞれを単独に研究することもできるが、その相互作用も重要である。そこで、心理的側面と行動的側面との関係、精神と身体の相互作用、感情と健康の関係、言語的・非言語的情報伝達手段の構造と機能、非言語行動や感情などを手がかりとした人間関係研究などを中心的なテーマとする。また、東洋的思想からの「からだところの知恵」にも興味がある。心理行動学、身体心理学は既存の領域ではないので、関連する領域の広範な文献研究から、過去の研究、現在の動向を探り、将来への実践的研究にまとめたい。さらに実験計画を踏まえた実験心理学的研究はもとより、調査研究、フィールド研究などの各種研究手法を駆使して新しい領域を開拓することも課題としたい。生涯発達、心理臨床への応用のみならず、教育・看護・医療場面への応用も考えたい。		
Keywords	言語的・非言語的コミュニケーション、感性、感情、健康、からだ(身体)、身体感覚、姿勢、接触、食行動		
Web page	http://www.f.waseda.jp/masaosuz/		
E-mail	masaosuz■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		

研究指導名	生態心理学	教授	三嶋 博之
専門・専攻分野	認知科学／生態心理学	学位	博士(人間科学)早稲田大
指導内容	人間が環境から獲得する有意味な情報単位を特定すること、その情報単位の特性とそれを知覚し利用する人間の振るまいとの間にある法則性を解明すること、行為の学習や発達という変化を支える環境資源について特にそこで利用されている情報の観点から明らかにすること、等について扱う。技術的には実験心理学的な手法を、理論的にはJ. J. Gibsonの生態学的アプローチを、それぞれ研究遂行のための支えとする。関連分野の文献の検討、先行研究の追試、新しい解析手法の試用等を行って基礎固めをしながら、実証的なオリジナルの研究の確立を目指す。なお、受講生はMATLABないしは他のプログラム言語を使用できることが望ましい。		
Keywords	アフォーダンス、マイクロスリップ、目的的行為の知覚制御、ダイナミカル・システムズ・アプローチ、自動車運転行動		
Web page			
E-mail	mishima■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		

研究指導名	知識情報科学	教授	松居 辰則
専門・専攻分野	感性情報処理、人工知能、スキルサイエンス、教育情報科学、e-learning システム	学位	博士(理学)早稲田大
指導内容	「人間の深い知識(感性, 暗黙知)への科学的アプローチ」をテーマにして多面的に研究を行う。数学的基盤開発、モデル化、心理実験、生体計測、システム開発、社会調査、文献研究等、テーマに応じて柔軟にかつ複合的に研究方法論を選択する。具体的には次のような研究テーマが考えられる。1)「感性」や「暗黙知」への情報科学的アプローチ(ヒューマンインタフェース、脳機能モデリング、スキルサイエンス(芸術、スポーツ、伝統芸能、医療、運転技術)など)、2)エージェントやロボットとの共生・インタラクションに関する研究、3)心的過程への内容指向アプローチ(オントロジー構築)による測定・評価のための量的&質的手法の開発、4)学習者の心理状態の推定方法の開発と学習支援システムへの実装(知的メンタリングシステム)、5)生命現象や社会現象のシミュレーション、6)感性を刺激するようなe-learningシステムや学習教材の開発、7)音楽情報処理など。		
Keywords	感性情報処理, 人工知能、感性データ解析、スキルサイエンス、計量心理学、知的 e-learning システム、暗黙知(ノウハウ)、オントロジー、脳機能モデリング、シミュレーション		
Web page	http://www-mtlab.human.waseda.ac.jp または http://w-mtlab.info		
E-mail	matsui-t■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		

研究指導名	人間生体機能動態学	教授	宮崎 正己
専門・専攻分野	環境人間工学、生理人類学、生活環境学	学位	博士(医学)埼玉医科大
指導内容	本指導では、人間の快適性は、何かという疑問点を人間工学という学問体系を踏まえた応用的な観点から、追及をすることを目的とする。基本的な知識から、いかに人間とは、ということを知り、それを解明する手続きを実験的な観点から習得すること、定量的な観点からの研究をおこなうことを目的とする。人間の理想的なパラメーターを変化させることにより、人間は、いかなる生体反応に従うかについて、具体的、実践的な追及を推し進めることにより研究指導をおこなう。		
Keywords	快適性、環境と生体反応		
Web page			
E-mail	mayazaki■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		

研究指導名	福祉工学	教授	藤本 浩志
専門・専攻分野	福祉工学、生活支援工学、ヒューマンインターフェース	学位	博士(工学) 早稲田大
指導内容	<p>障害者や高齢者の自立を支援する福祉機器、同時にユニバーサルデザインのコンセプトであるあらゆる人にとって有用なインターフェース技術の研究を行う。基礎的研究では、身体の運動機能の評価と感覚機能の解明を行う。運動機能についてはさまざまな運動中に主に下肢関節に作用する負荷を定量的に評価する。感覚機能については、主に皮膚感覚に着目し、皮膚感覚が備えている知覚機能(硬さや形状、力など)の特性を解明や、特に点字や触図の評価を取り上げている。さらに応用研究として、基礎研究の知見に基づき、人と親和性の高い機器の開発や評価を行う。また障害者や高齢者の場合として、ある身体機能を失った場合に適切な代行機能を備えた自立支援機器およびインターフェースの開発研究も行う。このように研究のスタンスとしては、身体諸機能の解明からモノ作り(機器開発)に至るまで、広い研究手法をカバーしている。</p>		
Keywords	ヒューマンインターフェース、自立支援システム、感覚機能、運動機能		
Web page	http://www.f.waseda.jp/fujimoto/		
E-mail	fujimoto■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		

研究指導名	生活人間工学	准教授	加藤 麻樹
専門・専攻分野	生活人間工学	学位	博士(人間科学) 早稲田大
指導内容	<p>人間の日常生活を構築する環境要因である、人工的な製品の数々は、豊かで快適な生活を実現するとともに、人間との適合性が低い場合には安全を脅かす危険環境となり得る。しかし、過度に身近であるために、身の回りの製品が生活に対して与える影響を客観的に評価する機会は少ない。生活人間工学では、日常生活において見逃され易い課題を抽出するとともに、客観的な分析と具体的な解決策の検討により、安全かつ効率的で快適な生活空間を構築する研究を行う。</p>		
Keywords	製品安全設計、フェイルセーフ、ヒューマンマシンインターフェイス、作業分析		
Web page			
E-mail	macky■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		

研究指導名	加齢人間工学	教授	倉片 憲治
専門・専攻分野	加齢人間工学	学位	博士(人間科学) 大阪大
指導内容	<p>加齢人間工学は、加齢変化によって高齢者(及び障害者)が引き起こすエラーや事故、日常的に経験する不便さ・困難さ等について考察し、それら諸問題の解決方法を見いだす人間工学の一分野である。加齢や障害、環境条件等による人間の感覚・心理特性の変化の調査・測定を通して、高齢者等を含む様々な人が製品・サービス・環境を利用する時に生じる問題を発見し、それを解決する技術的手段を探るための研究指導を行っていく。</p>		
Keywords	加齢、人間工学、感覚、認知、障害、ヒューマンエラー、人間中心設計		
Web page	http://researchmap.jp/read0166286/		
E-mail	kurakata.kenji■waseda.jp(左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		

8. 教育コミュニケーション情報科学研究領域

研究指導名	インストラクショナルデザイン論	教授	向後 千春
専門・専攻分野	教育工学、心理学	学位	博士(教育学)東京学芸大
指導内容	最大の学習効果を生むような「教え方」を追求するのがインストラクショナルデザインである。行動分析学、認知心理学、社会構成主義、臨床心理学(アドラー心理学)といった心理学を基礎理論として、テクノロジーの開発と活用を含んだ教育工学的アプローチによって実践的な研究を指導する。大学教育、企業内教育、成人教育を中心的なフィールドとして、実務能力のあるインストラクショナルデザイナーを養成する。		
Keywords	教育工学、インストラクショナルデザイン、認知心理学、アドラー心理学、e ラーニング、成人教育、大学教育、作文教育		
Web page	http://kogolab.wordpress.com/		
E-mail	kogo■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		

研究指導名	インターネット科学	教授	西村 昭治
専門・専攻分野	情報科学／インターネット科学、メディア科学、教育工学	学位	博士(人間科学)大阪大
指導内容	インターネット上の様々なデータを科学的に分析しそれに基づき我々の生活に有用なアプリケーションの設計を行い開発・評価をする。例えば膨大なインターネット上にある日本語文章の特徴を分析し、その分析結果を基に効率よくユーザが知りたいデータをインターネットより見つけ出すアプリケーションの開発するようなテーマが挙げられる。その他適応分野は教育、金融など多岐にわたる。		
Keywords	インターネット、データマイニング、統計解析、アプリケーション開発、教育工学		
Web page	http://www.waseda-nishimura.jp/		
E-mail	kickaha■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		

研究指導名	学習環境デザイン論	准教授	尾澤 重知
専門・専攻分野	教育工学、学習科学、高等教育論	学位	博士(知識科学)北陸先端科学技術大学院大
指導内容	「学習環境デザイン」は、人材育成や教育研修などの実践的活動を対象として、いかに創造的な学びの場をデザインするか、また、そのための学習支援や評価をいかに行うかを探究することを目的としている。学習科学や教育工学(とりわけ社会構成主義)の知見に基づき、協調学習(Collaborative Learning)による知識創造の支援、経験学習(とくにReflection)の支援方法の開発、また学習支援を効果的に行うためのテクノロジーの活用に関する研究を進めている。この数年は、大学授業における学習履歴(Learning Portfolio)、社会人の内省支援、授業でのソーシャルメディア活用などに力点を置いてきた。方法としては、デザインリサーチ、インタビュー法、参与観察、学習データ分析(Learning Analytics)を主に用いている。		
Keywords	学習支援、学習支援システム、知識創造、協調学習、集合知、学習データ分析		
Web page	http://www.ozaken.org/		
E-mail	ozawa■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		

研究指導名	教育システム開発論	教授	井上 典之
専門・専攻分野	教育心理学、教育研究手法、教師教育	学位	Ph.D コロンビア大
指導内容	教育システム開発における複雑性にメスを入れ、人を教えることや学習のプロセスに関する新しい知見を生み出すための実践的・実証的研究を行う。それと同時に現代社会における様々な教育の課題の解決に貢献できる理論的フレームワークの構築を目指し、その理論構築のプロセス、教育における文化認識論の役割、理論と実践のギャップを乗り越えるための研究手法のあり方などについて考える。		
Keywords	教育システム、アクションリサーチ、教師の専門技能、学習プロセス、学習における内的動機、数学教育、国際教育		
Web page			
E-mail	n.inoue■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		

研究指導名	教育コミュニケーション学	教授	保崎 則雄
専門・専攻分野	日英語教育・学習方法論、メディア教育論、映像表現論	学位	Ph.D. (The Ohio State University)
指導内容	言語運用、メディア表現、身体表現は、真正性(authentic)の高い状況において、適切に生起、創造され、習得される。研究視点として、Media attributes, BICS(生活言語能力)、CALP(学習言語能力)、mediated artifacts, situated learningなどの基本概念の理解、批判などが重要である。これらの理解を深めつつ、メディア利用の日英の言語教育・学習、メディア・リテラシー育成、教材開発、映像表現などを研究対象とする。同時に effective media presentationなどの錬成を内外の学会発表を通して指導する。Seeing is believing. Listening is comprehending. And participating in activities develops your learning.		
Keywords	Teaching/learning methods, media literacy, TESOL/JAFL, media production, study abroad, pre- & in-service teacher training, media specialist		
Web page			
E-mail	aid811em■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		

研究指導名	教育実践学	教授	浅田 匡
専門・専攻分野	教育工学、教育心理学、教師学	学位	
指導内容	学校教育を中心として、授業をはじめ教育実践の改善に資する実践研究を行う。教育実践における教師の役割は大きく、教師研究を中心とし、教師の実践に関する知識の獲得過程や教師間の相互作用による知識創造過程などを、具体的な授業実践に基づきながら研究を行う。そこでは、専門家としての教師の力量形成にとどまらず、人間的成長を視野に入れている。方法としては、インタビュー法、観察、ビデオによる授業分析など、いわゆる質的研究と調査法を組み合わせ用いる。また、教育実践学のバックグラウンドとして、自己心理学、人間性心理学、教育方法学、教育工学、システム論、組織マネジメントなどの文献講読をあわせて行う。		
Keywords	授業研究、教師教育、実践知、教師の職能発達、カリキュラム、学校システム、アクション・リサーチ、メンタリング		
Web page			
E-mail	asada■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		

研究指導名	教育情報工学	教授	永岡 慶三
専門・専攻分野	教育学、教育情報工学	学位	工学博士(慶應義塾大)
指導内容	<p>教育学のなかでも特に情報を扱う分野あるいは情報の観点から見た領域についての研究指導を行う。外国語を含む文献の探し方、読み方、引用のし方、解釈のし方、またデータの収集、整理、分析、吟味、論理展開の各方法を基本として学習し、課題の設定、発見、分析、仮説設定とその実証方法としての実験または観察についての計画、実施、整理にもとづき、論文形式で研究成果をまとめるまでをOJT形式で指導する。また、コンピュータソフトウェア作成を中心とした教育システム試作・開発についても、研究開発方法、比較評価、管理・改訂、実践・実用化の方法論についても考究し指導する。</p>		
Keywords	教育学、教育情報工学、教育情報解析、教育評価、遠隔教育、コンピュータ・テスト・システム、教育システム開発		
Web page			
E-mail	k.nagaoka■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		

研究指導名	情報コミュニケーション科学	教授	金子 孝夫
専門・専攻分野	情報科学、情報コミュニケーション科学	学位	博士(工学)広島大
指導内容	<p>音声、画像、データなどのマルチメディアによる情報コミュニケーション科学の研究の基礎技術について、コンピューターによる実験と研究動向の調査などの実習を含む研究によって学習する。具体的には、デジタルメディア処理、ネットワークデータ伝送、コンピューターによるデータ入出力、ヒューマンインタフェースなどの情報コミュニケーション科学研究のための入門技術を調査研究の対象とする。</p>		
Keywords	情報通信ネットワーク、マルチメディア、デジタル信号処理、ヒューマンインタフェース、情報コンテンツ		
Web page	http://www.f.waseda.jp/kane/		
E-mail	kane■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		

研究指導名	情報コミュニケーション技術論	教授	スコット ダグラス
専門・専攻分野	コミュニケーション、異文化コミュニケーション	学位	Ph.D(教育学)Univ. of Michigan
指導内容	<p>The general topic area is information and communication technologies (ICT) and how these tools can help (and potentially impede) our efforts to communicate with others. We have many ICT tools to choose from, for instance telephone call, email, text messaging, etc., and the challenge is to know the advantages and disadvantages of each to make the best selection for the situation. Topics of interest include mobile phone use by Japanese young people, Internet-based communications by American college students, video conferencing in education, and gender differences in ICT use.</p>		
Keywords	情報コミュニケーション技術、 インターカルチュラルコミュニケーション、 教育学		
Web page	http://scottlab.org/scottzemi/		
E-mail	djscott■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		

研究指導名	情報メディア教育論	准教授	森田 裕介
専門・専攻分野	教育学	学位	博士(学術)東京工業大
指導内容	情報メディアを活用した教育に関する研究や教材の開発を通して、教育学的アプローチによる研究方法論を指導する。まず、情報メディアを活用した教育の可能性について仮説をもち、教育学、認知心理学、科学教育などの領域で行われてきた先行研究の知見を収集しまとめる。次に、学校教育の視点に立った教育システムや学習コンテンツの開発とその評価を試み、実験室レベルでの評価実験や教育現場での実践的利用を通して、問題点の改善を行う。以上のプロセスを通じて、さまざまな角度から、研究の意義と将来性について議論を行う。		
Keywords	教育学、情報メディア、教育システム開発、学習コンテンツ		
Web page			
E-mail	ymorita■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		

研究指導名	ネットワーク情報システム学	教授	金 群
専門・専攻分野	計算機科学、情報システム学、人間情報学	学位	博士(工学)日本大
指導内容	ユビキタス技術の発展に伴い、情報システムは益々多様化、大規模化の様相を呈し、様々なレベルでの情報融合、サイバー空間と実社会の統合が進んでいる。本研究指導では、情報・情報システムに関する科学を学際的観点からとらえ、従来のソフトウェア工学的アプローチに加え、システム利用者である人間のふるまいを考慮した広い視野と、ユーザ中心という絞った視点に立って、総合的かつ体系的なネットワーク情報システムの構築方法論を研究するとともに、ネットワーク情報システムの一層の高度化をめざした理論と応用の両面にわたる研究を行う。ユーザ中心のネットワーク情報システムの未来像や情報技術の高度化で生じる諸問題と人間社会への影響についても探究する。		
Keywords	ユーザ中心、ユビキタス、ビッグデータ、情報融合と持続可能な利活用、人間情報挙動解析、ユーザモデル、情報検索・推薦、個性化サービス		
Web page	http://www.f.waseda.jp/jin/		
E-mail	jin■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		

研究指導名 (複数教員 研究指導)	教育情報メディア工学			
	教授	永岡 慶三(筆頭)	准教授	森田 裕介
専門・専攻分野	教育学、教育情報工学		教育学	
学位	工学博士(慶應義塾大)		博士(学術)東京工業大	
指導内容	教育学に関する研究、特に、情報やメディアに関連した領域の研究指導を行う。例えば、ビッグデータとしての教育情報の分析手法や評価手法の提案、並びにそれらの手法を具現化した学習支援システムやツールの開発、仮想現実・拡張現実などのテクノロジーを応用した学習支援システムやツールの開発などを指導する。そして、開発したシステムやツールの有用性・有効性を研究成果として公表するための指導・助言を行う。			
Keywords	教育学、教育システム開発、教育情報解析、教育評価、遠隔教育、コンピュータ・テストング・システム、情報メディア、学習コンテンツ			
Web page				
E-mail	k.nagaoka■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください) ymorita■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)			

教育臨床コース(修士課程1年制)

研究指導名	学校臨床心理学（修士課程1年制）	准教授	大月 友
専門・専攻分野	行動分析学	学位	博士（臨床心理学）広島国際大
指導内容	学校教育場面における教育臨床上の諸問題、および、児童期から青年期にいたる心理行動面の諸問題に関する、参加各人の研究テーマをもとに指導を行なう。問題設定、研究計画立案、データの収集、データ分析、考察、課題研究論文作成、発表などの各方法についての指導・助言を通して、参加各人が教育臨床に関する研究能力を獲得することを目指す。		
Keywords	行動分析学、関係フレーム理論、臨床行動分析、行動療法、学校教育臨床		
Web page			
E-mail	tomu.ohtsuki■waseda.jp（左記■部分を@に変更してメールを送ってください）		

研究指導名	臨床認知発達学（修士課程1年制）	特任教授	井原 成男
専門・専攻分野	発達臨床心理学	学位	
指導内容	子どもの発達を、実証的に研究しています。35年にわたる病院小児科の勤務が研究と発想の核になっています。アタッチメントとそこからの卒業、また発達障害の包括的理解と理論構築に関心があります。心理療法論を科学的に構築するのが夢です。発達心理学と臨床心理学の統合、①発達テストからみた発達障害論、②アタッチメントとそこからの卒業、③育て直しと発達心理学的視点、④ウィニコットと移行対象、子どもの執着行動の研究、⑤心理療法論の統合的理解をライフワークとして目指しています。		
Keywords	発達臨床心理学、アタッチメント、ウィニコット、移行対象、中間領域、育て直し		
Web page			
E-mail	nariowaseda■waseda.jp（左記■部分を@に変更してメールを送ってください）		

以上